



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
 上尾市大字上1774-7
 048(776)0575
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
 ホームページは検索サイト
 "深山たかし"で閲覧できます。

議会レポート

暮らしやすい地域

介護マークの普及

認知症介護は、他人から見ると介護している事が分かりにくいいため、誤解や偏見を持たれて困るとの声が介護している家族の方から多く寄せられた。

静岡県では昨年介護する方が介護中であることを周囲に理解して頂くために、全国で初めて「介護マーク」を作成しました。

これを受けて、厚生労働省老健局高齢者支援課は、昨年十二月十三日付で全国展開への通達を出しています。茨城県やさいたま市でもすでに導入されています。



上尾市でも導入して頂きたいと考え、質問しました。

答弁で、上尾市も導入に向け、検討に入りましたので、早い時期に「介護マーク」の導入が出来るものと考えています。

樹木葬について

地域の皆さんにお話を伺うと、「上尾市は住みやすいので終の棲家として越してきた」と言われる方が多いことに気づきます。

議員として嬉しい言葉のひとつですが、何人もの方にお話をお聞きしたところ、上尾市から離れた距離に、お墓を持つている人が多いことに気がつきました。「墓守」は大変なことです。自身が高齢になると、なおさらのことお墓参りすることも困難になります。上尾市でも公設霊園の設置が出来ないかを質問しました。

東京都では、平成二十年二月の東京都公園審議会答申「都立霊園における新たな墓所の供給と管理について」を受け、既存の都立霊園を活用しながら、墓地に対する都民ニーズの多様化に因應するため、新たな形式である「樹林墓地」の整

備を行ってききました。樹林墓地は、死後は安らかに自然に還りたい、という多くの都民の皆様の思いに込えられるよう、樹林の下に共同埋蔵施設を設け、直接土に触れる形で遺骨を埋蔵するそうです。

現在、上尾市では「お墓」が不足している状態ではないとの見解でした。

お墓を造成には、周囲に居住されている皆様のご理解が必須です。

それに加え、土地の確保や様々な課題を克服しなければなりません。

今後、調査・研究をお願いします。



樹木葬のひとつ「桜葬」

行財政問題について

心の教育

私は、三期目の活動目標に「明るい社会を作るために、子供たちの教育は重要です。小さいうちから「思いやりの心」を育てて社会生活で何をなすべきか、自分で考えられる力を育てます。」としました。

そこで今回は、心の教育について質問しました。パネル・ディベートの導入について

パネル・ディベートとは、ディベートの基盤上にパネルディスカッションの長所を取り入れたものであり、兵庫県立教育研修所が独自に実施している討議法だということです。

蔵木(きゆうらぎ)小学 校広川分校の 教諭 高木 淑文さんは「パネル・ディベート」を活用した指導方

法の工夫改善を行うことによつて、児童が「的確に話すこと」や「相手の意図をつかみながら聞くこと」、さらに、「相手の意見に対して賛同したり、反対したりすること」ができるようになり、対話能力が向上していくものとし、研究成果をまとめました。

心の基盤作りについて 鳴門教育大学の「予防教育」について

いじめや暴力、うつ病、肥満といった子どもたちを取り巻く問題は、すべて心の問題から発生しているというのが予防教育の考え方です。

同大の予防教育は、「自律性」と「対人関係性」の育成を大目標とする包括的なプログラムで、いじめや生活習慣改善など特定の問題に絞った「オプショナル教育」も用意している。と

のことです。

全国小・中学校作文コンクール埼玉審査の特選に「海老フライ事件が教えてくれたこと」と題し、春日部市の唐木エリカさんの作文がありました。

論語塾に通う兄弟が「海老フライ事件」を契機に成長する物語です。

兄弟は、塾で教えられた論語の「忠恕」の意味を自分たちで咀嚼、自身の態度を反省し祖父に謝罪する。論語は心の形成に有効と考えます。

震災体験の講演の実施。被災地で家や家族・知人を失いながらもたくましく育つ子供たちの姿に心を打たれました。

この教訓を風化させないためにも、被災地体験談を是非実施していただきたいと考えています。

以上のような学習活動の導入を提案しました。

基金の積み増し

上尾市が保有する総資産が時価で六、八二三億円、このうち公共施設やインフラの更新費用として年間約六七億円の費用が必要」との見解が示されました。

私が、最も懸念していることが、この更新費用の財源をどのように確保していくのかということですが、主要三基金の残高をみて非常に危惧しているところでもあります。

特に公共施設整備基金の残高は微々たるもの(五・七億円)であり、施設の再配置などのアセットマネージメントを視野に入れたとしても、資産の更新費用を賄う財源としては大きな不安があります。

このように、公共施設の整備費用は莫大な金額に上りますので、毎年一定額以上の基金を積み増しができればならないと思っております。

編集後記

六月に提案した使い捨てライター回収ボックスが十二月一日に設置されました。開けて見ると、たくさん入っていて担当者もビックリしていました。

みんなが困っていた事だった様です。ボックスのアップマークは島村市長の発案です。



ペール缶を再利用したライター回収ボックスです。